

表1 生活機能低下リスクスクリーニング項目案

体力		
1	歩く速さは同じ年齢の人に比べて、速い方だと思いますか、遅い方だと思いますか	速い 同じくらい 遅い わからない
2	急ぎ足で30分間歩き続けることができますか	はい いいえ
3	人や物にぶつかりそうになったら、すぐによけることができますか	はい いいえ
4	強く締まっている大びんのねじ蓋を開けることができますか	はい いいえ
5	しゃがんだ姿勢から、手をつかわずに立ち上がれますか	はい いいえ
栄養		
1	1年前の同じ頃に比べて、今は体重が3kg以上減少していますか	はい いいえ
2	肉類、卵、魚介類、牛乳のうち、いずれかを毎日1つ以上食べていますか	はい いいえ
3	食欲はありますか	はい いいえ
4	毎日3度の食事以外に、おやつを食べますか	はい いいえ
5	食事をするのが楽しいですか	はい いいえ
気力		
1	将来に夢や希望がありますか	はい いいえ
2	毎日の生活で気力を感じていますか	はい いいえ
3	自分が無力だと感じることはありませんか	はい いいえ
4	普段やっていたことが、おっくうに感じることはありませんか	はい いいえ
5	外出したり何か新しいことをするよりも家にいたいと思いますか	はい いいえ

表2 転倒に関連する生活機能リスクスクリーニング指標の分析

		転倒(0なし 1あり)
人や物にぶつかりそうになったら、すぐによけることができますか	0.いいえ 1.はい	0.61(0.35~1.05)
強く締まっている大びんのねじ蓋を開けることができますか	0.いいえ 1.はい	0.78(0.46~1.33)
しゃがんだ姿勢から、手をつかわずに立ち上がれますか	0.いいえ 1.はい	0.58(0.36~0.94)*
毎日3度の食事以外に、おやつを食べますか	0.いいえ 1.はい	0.66(0.41~1.07)
将来に夢や希望がありますか	0.いいえ 1.はい	0.87(0.57~1.33)

Odds Ratio (95% Confidence Interval). *: P<0.05. 従属変数に転倒の有無、独立変数に二群間(転倒の有無)の比較で有意差がみられた質問項目、共変量に性、年齢を投入した。

表3 尿失禁に関連する生活機能低下リスクスクリーニング指標の分析

		尿失禁 (0.なし 1.あり)
歩く速さは同じ年齢の人に比べて、速い方だと思いますか、遅い方だと思いますか 0.その他 1.速い		1.09(0.33~3.55)
急ぎ足で30分間歩き続けることができますか 0.いいえ 1.はい		0.71(0.27~1.86)
人や物にぶつかりそうになったら、すぐによけることができますか 0.いいえ 1.はい		0.24(0.12~0.46)***
強く締まっている大びんのねじ蓋を開けることができますか 0.いいえ 1.はい		0.67(0.35~1.28)
しゃがんだ姿勢から、手をつかわずに立ち上がれますか 0.いいえ 1.はい		0.42(0.20~0.89)*
肉類、卵、魚介類、牛乳のうち、いずれかを毎日1つ以上食べていますか 0.いいえ 1.はい		1.23(0.61~2.50)
食欲はありますか 0.いいえ 1.はい		0.79(0.28~2.17)
食事をするのが楽しいですか 0.いいえ 1.はい		0.41(0.16~1.06)
将来に夢や希望がありますか 0.いいえ 1.はい		1.40(0.70~2.82)
毎日の生活で気力を感じていますか 0.いいえ 1.はい		0.57(0.30~1.10)
自分が無力だと感じることはありませんか 0.はい 1.いいえ		0.89(0.49~1.62)
普段やっていたことが、おっくうに感じることはありませんか 0.はい 1.いいえ		0.37(0.18~0.79)**
外出したり何か新しいことをするよりも家にいたいと思いますか 0.はい 1.いいえ		1.21(0.65~2.26)

Odds Ratio (95% Confidence Interval). *: $P < 0.05$, **: $P < 0.01$, ***: $P < 0.001$. 従属変数に尿失禁の有無、独立変数に二群間(尿失禁の有無)の比較で有意差がみられた質問項目、共変量に性、年齢を投入した。

表4 生活機能低下に関連する生活機能低下リスクスクリーニング指標の分析

		生活機能低下 (0.なし 1.あり)
歩く速さは同じ年齢の人に比べて、速い方だと思いますか、遅い方だと思いますか	0.その他 1.速い	1.32(0.66~2.63)
急ぎ足で30分間歩き続けることができますか	0.いいえ 1.はい	0.78(0.44~1.41)
人や物にぶつかりそうになったら、すぐによけることができますか	0.いいえ 1.はい	0.28(0.15~0.50)***
強く締まっている大びんのねじ蓋を開けることができますか	0.いいえ 1.はい	0.58(0.34~0.98) *
しゃがんだ姿勢から、手をつかわずに立ち上がれますか	0.いいえ 1.はい	0.54(0.32~0.91) *
肉類、卵、魚介類、牛乳のうち、いずれかを毎日1つ以上食べていますか	0.いいえ 1.はい	0.63(0.34~1.18)
食欲はありますか	0.いいえ 1.はい	1.68(0.55~5.16)
毎日3度の食事以外に、おやつを食べますか	0.はい 1. いいえ	0.61(0.35~1.07)
1年前の同じ頃に比べて、今は体重が3kg以上減少していますか	0.いいえ 1.はい	0.20(0.06~0.65) **
食事をすることが楽しいですか	0.いいえ 1.はい	0.60(0.22~1.66)
将来に夢や希望がありますか	0.いいえ 1.はい	0.65(0.39~1.11)
毎日の生活で気力を感じていますか	0.いいえ 1.はい	0.85(0.48~1.52)
自分が無力だと感じるがありますか	0.はい 1.いいえ	0.68(0.41~1.12)
普段やっていたことが、おっくうに感じるがありますか	0.はい 1.いいえ	1.08(0.64~1.82)
外出したり何か新しいことをするよりも家にいたいと思いますか	0.はい 1.いいえ	0.74(0.45~1.23)

Odds Ratio (95% Confidence Interval). *: $P < 0.05$, **: $P < 0.01$, ***: $P < 0.001$. 従属変数に生活機能低下の有無、独立変数に二群間(生活機能低下の有無)の比較で有意差がみられた質問項目、共変量に性、年齢を投入した。

表5 基本チェックリスト（運動器）および生活機能低下スクリーニング指標（体力項目）の得点と身体機能の相関係数

		基本チェックリスト運動器	自立度低下リスク評価体力
握力	Pearsonの相関係数	-0.324	-0.313
	有意確率（両側）	**	**
	N	741	770
通常歩行速度	Pearsonの相関係数	-0.434	-0.512
	有意確率（両側）	**	**
	N	794	824
最大歩行速度	Pearsonの相関係数	-0.455	-0.500
	有意確率（両側）	**	**
	N	705	733

** P<0.01.

表6 基本チェックリスト（栄養）及び生活機能低下リスクスクリーニング指標（栄養紅毛）の得点と栄養指標・食品摂取状況の相関係数

		基本チェックリスト栄養	自立度低下リスク評価栄養
血清アルブミン	Pearsonの相関係数	-0.148	-0.038
	有意確率（両側）	**	
	N	738	821
BMI	Pearsonの相関係数	-0.317	-0.125
	有意確率（両側）	**	**
	N	742	826
食品摂取多様性	Pearsonの相関係数	-0.040	-0.147
	有意確率（両側）		***
	N	740	824

** P<0.01, ***P<0.001.

表7 自立度低下リスク評価各項目得点ごとの一年後の生活機能低下発生のオッズ比

【体力項目】

得点	BADL低下 (N=619)	高次生活機能低下 (N=536)
	OR (95% CI)	OR (95% CI)
0点	reference	reference
1点	1.39(0.14-13.59)	1.03(0.34-3.09)
2点	2.45(0.27-22.47)	2.43(0.86-6.89)
3点	5.88(0.68-50.99)	2.87(0.98-8.41)
4点	13.4(1.57-114.4)*	4.95(1.58-15.5)**
5点	11.2(1.20-105.1)*	—

【栄養項目】

得点	BADL低下 (N=578)	高次生活機能低下 (N=503)
	OR (95% CI)	OR (95% CI)
0点	reference	reference
1点	2.03(0.85-4.82)	1.27(0.64-2.51)
2点	1.06(0.13-8.70)	5.02(1.71-14.7)**
3点	5.50(0.58-51.9)	2.06(0.20-21.3)

【気力項目】

得点	BADL低下 (N=621)	高次生活機能低下 (N=538)
	OR (95% CI)	OR (95% CI)
0点	reference	reference
1点	0.74(0.12-4.55)	1.37(0.52-3.62)
2点	1.15(0.22-6.00)	3.28(1.33-8.11)*
3点	3.71(0.85-16.2)	5.39(2.08-14.0)***
4点	5.54(1.36-22.5)*	2.99(1.00-8.90)*
5点	10.6(2.56-43.9)**	7.91(2.67-23.4)***

*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001.性、年齢を調整したロジスティック回帰分析を用いた。

OR :Odds Ratio, CI :Confidence Intervals

生活機能低下:BADL得点4点以下、老研式活動能力指標得点10点以下。

ベースライン時に自立者のみを対象に分析した。

表 8 要支援、要介護に関連する要因（静岡県調査結果より）

		要支援	要介護	
歩く速さ	遅い	2.063 (1.620-2.627)	2.235 (1.788-3.096)	vs. 同年代相当
	速い	0.625 (0.475-0.822)	0.861 (0.644-1.152)	vs. 同年代相当
体重減少(年に4kg以上)		1.926 (0.395-9.396)	5.785 (1.811-18.464)	vs. 4kg未満
BMI	< 18.5	1.239 (0.905-1.697)	1.322 (0.951-1.866)	vs. 18.5-24.9
	25<	1.164 (0.859-1.576)	1.159 (0.816-1.647)	vs. 18.5-24.9
肉・卵・魚介類・牛乳の摂取	2回以上	1.057 (0.834-1.340)	0.770 (0.600-0.988)	vs. 1回以下
食欲	あり	0.437 (0.303-0.630)	0.464 (0.306-0.703)	vs. なし
食事回数	3回以上	0.328 (0.193-0.558)	1.300 (0.465-3.636)	vs. 2回未満
野菜摂取	2回以上	0.755 (0.568-1.003)	0.818 (0.593-1.127)	vs. 1回以下
緑茶摂取	1~3杯	1.166 (0.489-2.782)	0.457 (0.238-0.879)	vs. ほとんど飲まない
	4杯以上	0.974 (0.415-2.283)	0.361 (0.193-0.675)	vs. ほとんど飲まない
夢や希望がある		0.606 (0.485-0.758)	0.667 (0.518-0.859)	vs いいえ
気力を感じる		0.442 (0.340-0.575)	0.467 (0.347-0.628)	vs いいえ
自分が無力だと感じる		1.716 (1.367-2.154)	1.665 (1.288-2.154)	vs いいえ

ロジスティック解析によるオッズ比と95%信頼限界を示した。

太字は有意な項目

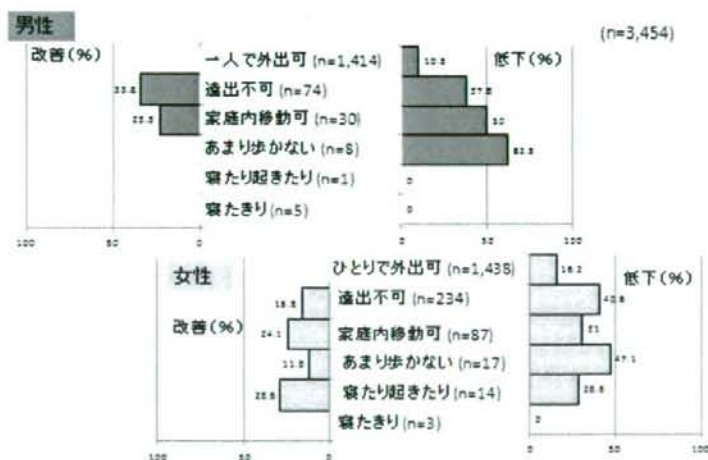


図 1 4年間の自立度の変化

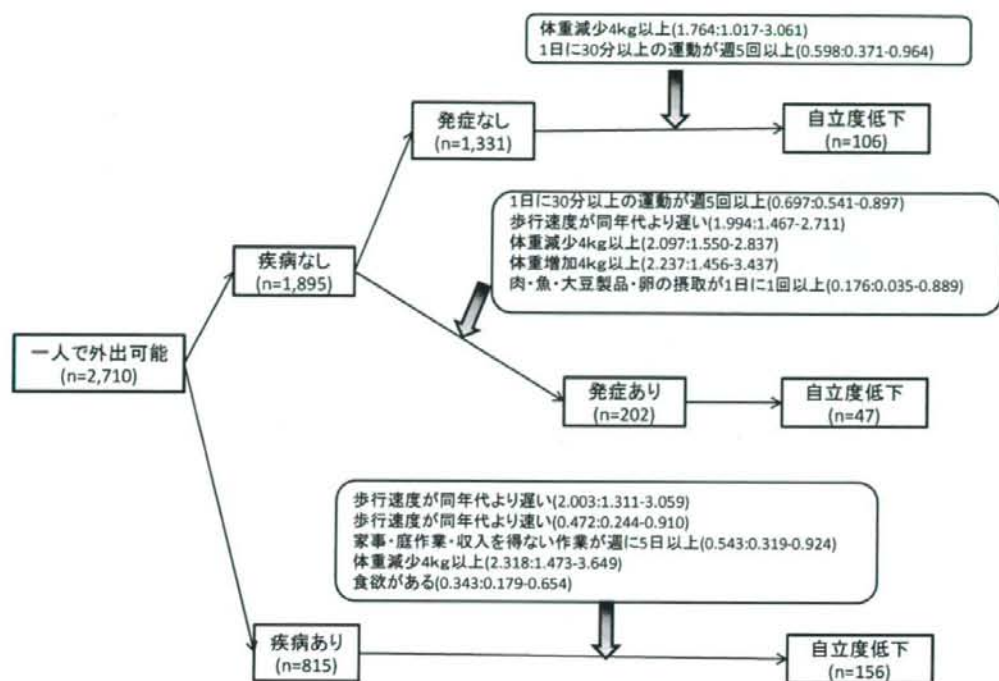


図2 自立度低下への生活習慣の影響

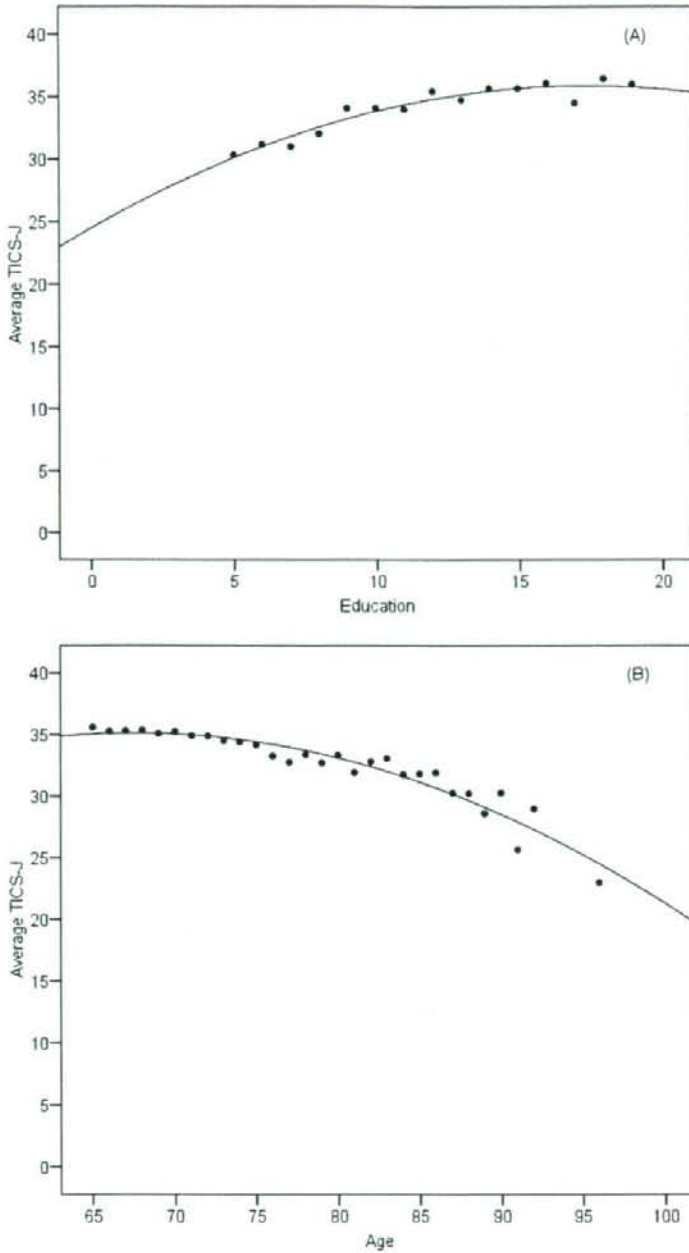


Figure 11. Scatter plots of the average TICS-J scores versus duration of education (A) and age (B). Trend line (A): Average TICS-J = $-0.037 \cdot \text{Education}^2 + 1.313 \cdot \text{Education} + 24.47$ (coefficient of determination: $r^2 = 0.913$) and (B): Average TICS-J = $-0.013 \cdot \text{Age}^2 + 1.776 \cdot \text{Age} - 24.83$ ($r^2 = 0.915$) where Age ≥ 65 .

表9. 性別および TICS-J 得点による2群間の特性と QOL 下位項目得点 (mean ± SD) および得点率 (%)

N(人)	性別		p 値	33 点未満		p 値	全体
	男性	女性		33 点未満	33 点以上		
(M/F:男性・女性)	994	926		364 (200/164)	1,556 (794/762)		1,920
年齢 (歳)	71.84 ± 5.58	71.90 ± 5.42	ns	74.80 ± 6.47	71.18 ± 5.01	0.001	71.87 ± 5.50
教育歴 (年)	11.66 ± 2.84	10.46 ± 2.18	0.001	9.78 ± 2.39	11.39 ± 2.57	0.001	11.08 ± 2.61
QOL 下位項目							
生活活動力 (得点率: %)	4.64 ± 0.76 (92.8)	4.79 ± 0.66 (95.8)	0.001	4.44 ± 1.07 (88.8)	4.78 ± 0.59 (95.6)	0.001	4.71 ± 0.72 (94.2)
健康満足感 (得点率: %)	2.34 ± 1.01 (78.0)	2.25 ± 1.09 (75.0)	ns	2.01 ± 1.18 (67.0)	2.36 ± 1.00 (78.7)	0.001	2.30 ± 1.05 (76.7)
人的サポートと満足感 (得点率: %)	2.79 ± 0.54 (93.0)	2.79 ± 0.56 (93.0)	ns	2.73 ± 0.61 (91.0)	2.81 ± 0.53 (93.7)	0.001	2.79 ± 0.55 (93.0)
経済的ゆとり満足感 (得点率: %)	1.33 ± 0.84 (66.5)	1.42 ± 0.82 (71.0)	0.001	1.21 ± 0.87 (60.5)	1.41 ± 0.82 (70.5)	0.001	1.37 ± 0.83 (68.5)
精神的健康 (得点率: %)	2.05 ± 1.04 (68.3)	1.80 ± 1.10 (60.0)	0.001	1.70 ± 1.15 (56.7)	1.99 ± 1.05 (66.3)	0.001	1.93 ± 1.07 (64.3)
精神的活力 (得点率: %)	2.25 ± 0.93 (75.0)	2.11 ± 1.03 (70.3)	0.001	1.91 ± 1.04 (63.7)	2.24 ± 0.95 (74.7)	0.001	2.18 ± 0.98 (72.7)

Mann-Whitney 検定、ns: 有意差なし

表 10. QOL 下位項目の得点と TICS-J の得点との関連

	β	β	β	β	β	β
性別	0.111*	-0.040	-0.007	0.071**	-0.119*	-0.056***
年齢	-0.176*	-0.103*	0.012	0.161*	-0.090*	-0.101*
教育歴	0.052***	0.033	-0.008	0.077**	-0.008	0.080**
生活活動力	0.121*					
健康満足感		0.101*				
人的サポート 満足感			0.062**			
経済的ゆとり 満足感				0.118*		
精神的健康					0.086*	
精神的活力						0.089*

β : 標準化係数 * : $p < 0.001$, ** : $p < 0.01$, *** : $p < 0.05$.

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者名	論文タイトル	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
田中喜代次, 大蔵倫博		田中喜代次, 大蔵倫博 (編集):	健康運動の支援と実践.	金芳堂	京都	2006	1-252
田中喜代次, 奥野純子 (監訳)		Patricia A Brill (著))高齢者のための生活関連体力強化法-介護予防のために使える具体的プログラム-	ナッブ	東京	2006	1-140
田中喜代次, 中垣内真樹, 重松良祐 (編集)	中高年者のための運動プログラム-基本編-	財団法人日本体育協会 (監修)	中高年者のための運動プログラム-基本編-	ナッブ	東京	2006	
田中喜代次, 牧田茂 (編集)	中高年者のための運動プログラム-病態別編-	財団法人日本体育協会 (監修)	中高年者のための運動プログラム-病態別編-	ナッブ	東京	2006	
田中喜代次, 阿久津智美, 秋葉隆, 秋澤忠男	運動療法はどのような効果をもたらすか	田中喜代次, 阿久津智美, 秋葉隆, 秋澤忠男 (編集)	透析療法ネクストV透析患者のQOL向上をめざして	医学図書出版株式会社	東京	2006	25-32
高田和子	血圧のための運動メニュー、骨粗しょう症のための運動メニュー	渡邊昌、和田攻監修	100歳まで元気人生! 「病気の予防」 百科	日本医療企画	東京	2007	432-453

<u>田中喜代次</u>	ジェロントロ ジースポーツ の生理学～健康 長寿を目指して～		ジェロントロ ジースポーツ -成熟人生を “好く” 生きる 人のための スポーツライフ	ジェロ ントロ ジース ポーツ 研究所	東京	2007	50-59
<u>田中喜代次</u> , 沼尾 成晴, 藪 下典子	第4章運動プ ログラムを作 成するための 科学的根拠 8.高齢者にお ける体脂肪と 運動, 栄養		運動器の機能 向上のための 介護予防実践 マニュアル- 科学的根拠に 基づく効果的 かつ安全な実 践に向けて-	社会保 険研究 所	東京	2007	112-117
<u>田中喜代次</u> , 中田 実千	Chapter4 運 動指導の実践 と応用		特定保健指導 における運動 指導マニュアル	NPO 法人日 本健康 運動指 導士会	東京	2007	77-122
<u>高田和子</u>	特定高齢者と 介護予防	佐藤祐造、 川久保清、 田畑泉、樋 口満編	特定健診・保 健指導に役立 つ健康運動指 導マニュアル	文光堂	東京	2008	45-46

雑誌

発表者名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Okuno J, Tomura S, Yanagi H, Yabushita N, Okura T, <u>Tanaka K</u>	The association between vitamin D level and functional capacity of daily living among Japanese frail elderly	J Bone Miner Res.	21	S170	2006
中垣内真樹, <u>田中喜代次</u> , 佐々木智徳, 坂井智明, 中村容一, 藪下典子	2年間の運動プログラムへの参加が虚血性心疾患患者および高血圧患者の活力年齢に及ぼす効果	Health Sciences	22	43-51	2006
新村由恵, 坂井智明, <u>田中喜代次</u>	在宅脳血管疾患患者における転倒予防の意義と今後の可能性.	教育医学	51	263-273	2006
坂井智明, 佐藤真治, 樋田あゆみ, 内田龍制, 牧田茂, <u>田中喜代次</u>	維持期心臓リハビリテーション男性患者の身体活動量	臨床運動療法研究会誌	8	8-10	2006
中垣内真樹, 浅見尚子, 和田実千, <u>田中喜代次</u> , 久保幸江	茨城県潮来市における健康づくり推進事業の有効性—運動実践状況別にみた運動プログラムの効果に着目して—.	公衆衛生	70	156-159	2006
<u>田中喜代次</u> , 小澤多賀子, 奥野純子	介護保険制度の施行に伴う高齢者体力づくり支援策のパラダイムシフト.	体育施設	445	5-8	2006

田中喜代次, 阿久津智美, 奥野純子	高齢者における運動の有効性と運動指導の基本的考え方-各自が工夫して運動するべきという理解の啓発が必要.	体育施設	445	9-11	2006
渡邊智之、藤掛和広、宮尾克、 <u>小長谷陽子</u> 、柴山漠人	高齢者の運転状況と認知症ドライバールイパーに関する研究	日本医事新報	4295	81-84	2006
<u>小長谷陽子</u> 、渡邊智之、鷺見幸彦、服部英幸、武田章敬、相原喜子、鈴木亮子、太田寿城	大規模調査に有用な新しい認知機能検査、TICS-Jの開発	Brain and Nerve	59	67-71	2007
久保田晃生、永田順子、杉山眞澄、藤田信、 <u>高田和子</u> 、太田壽城	高齢者における Quality of Life の縦断的变化に関する研究	厚生 の 指 標	54	32-39	2007
<u>高田和子</u>	生活機能評価の考え方	体育の科学	57	260-264	2007
<u>Jinhee Kwon</u> , Takao Suzuki, Hideyo Yoshida, et al	Association between change in bone mineral density and decline in usual walking speed among Japanese community elderly women during 2-year follow-up	Journal of American Geriatrics Society	55	240-244	2007
<u>吉田祐子</u> 、金 憲経、岩佐 一、 <u>権 珍嬉</u> 、他	都市部在住高齢者における尿失禁の頻度および尿失禁に関連する特性：要介護予防のための包括的健診（「お達者健診」）についての研究.	日本老年医学会雑誌	44	83-89	2007

吉田祐子, 權珍 嬪, 岩佐一, 吉田 英世, 金憲経, 杉 浦美穂, 古名丈 人, 鈴木隆雄	都市部在住高齢者における老 年症候群改善介入プログラム への不参加者の特性—介護予 防事業推進のための基礎資料 (「お達者健診」)より—	日本老年医学 会雑誌	44	231-23 7	2007
權珍嬪, 吉田祐 子, 岩佐一, 吉田 英世, 金憲経, 杉 浦美穂, 古名丈 人, 鈴木隆雄	都市部在住高齢者における老 年症候群のリスク保有者の健 康状態について—介護予防事 業推進のための基礎調査(「お 達者健診」より)	日本老年医学 会雑誌	44	224-23 0	2007
<u>Kwon J</u> , Suzuki T, Yoshida H, Kim H, <u>Yoshida Y</u> , Iwasa H	Concomitant lower serum albumin and vitamin D levels are associated with decreased objective physical performance among Japanese community-dwelling elderly	Gerontology	53	322-32 8	2007
Iwasa H, Yoshida H, Kim H, <u>Yoshida Y</u> , <u>Kwon J</u> , Sugiura M, Furuna T, Suzuki T	A mortality comparison of participants and non-participants in a comprehensive health examination among elderly people living in an urban Japanese community	Aging: Clinical and Experimental Research	19	240-24 5	2007
Nakamura Y, <u>Tanaka K</u> , Yabushita N, Sakai T, Shigematsu R	Effects of exercise frequency on functional fitness in older adult women	Arch Gerontol Geriatr	44	163-17 3	2007
重松良祐, 中垣内 真樹, 岩井浩一, 藪下典子, 新村由 恵, 田中喜代次	運動実践の頻度別にみた高齢 者の特徴と運動継続に向けた 課題	体育学研究	52	173-18 6	2007

鯉坂隆一, 村上晴香, 前田清司, 久野譜也, <u>田中喜代次</u> , 渡辺重行, 青沼和隆, 山口巖, 大槻毅, 家光素行, 曾根博仁	中高齢者における高感度CRPと運動耐容能の関連および運動トレーニング効果	心臓	39(suppl. 2)	12-14	2007
鯉坂隆一, 田辺匠, 村上晴香, 前田清司, <u>田中喜代次</u> , 曾根博仁, 久野譜也, 大槻毅	健常中高齢者における運動トレーニングの血清高感度CRP濃度に対する効果	体力科学	56	179-190	2007
Kodama S, Shu M, Saito K, Murakami H, <u>Tanaka K</u> , Kuno S, Ajisaka R, Sone Y, Onitake F, Takahashi A, Shimano H, Kondo K, Yamada N, Sone H	Even low-intensity and low-volume exercise training may improve insulin resistance in the elderly	Internal Medicine	46	1071-1077	2007
柳久子, 奥野純子, 戸村成男, 大蔵倫博, <u>田中喜代次</u>	軽度要介護者の血中ビタミンDレベルの分布状況とビタミンD・カルシウム製剤補充による介護予防効果-生活機能・身体機能と血中ビタミンDレベルとの関連より-	Osteoporosis Japan	15	677-681	2007
<u>Yoko Konagawa</u> , Yukihiro Washimi, Hideyuki Hattori, Akinori Takeda, Tomoyuki	Validation of the Telephone Interview for Cognitive Status (TICS) in Japanese	Int J Geriatr Psychiatry	22	695-700	2007

Watanabe, Toshiki Ohta					
山下真理子、小林敏子、松本一生、 <u>小長谷陽子</u> 、中村淳子	介護家族の視点からみた認知症高齢者の終末期治療 —その現状と課題—	日本認知症ケア学会誌	6	69-77	2007
Zhang J, <u>Ishikawa Takata</u> K, Yamazaki H, Morita T, Ohta T	Postural stability and physical performance in social dancers	Gait & Posture	27	697-701	2008
<u>吉田祐子</u> 、岩佐一、 <u>權珍嬌</u> 、古名丈人、 <u>金憲経</u> 、 <u>吉田英世</u> 、 <u>鈴木隆雄</u>	都市部在住高齢者における介護予防健診の不参加者の特徴 介護予防事業推進のための基礎資料(「お達者健診」)より	日本公衆衛生雑誌	55	221-227	2008
Iwasa H, Gondo Y, <u>Yoshida Y</u> , Kwon J, Inagaki H, Kwaai C, Masui Y, Kim H, Yoshida H, Suzuki T	Cognitive performance as a predictor of functional decline among the non-disabled elderly dwelling in a Japanese community: A 4-year population-based prospective cohort study	Archives of Gerontology and Geriatrics	47	139-149	2008
Suzuki T, Kwon J, Kim H, Shimada H, <u>Yoshida Y</u> , Iwasa H, Yoshida H.	Low serum 25-hydroxyvitamin D levels associated with falls among Japanese community-dwelling elderly.	J Bone Miner Res	23	1309-1317	2008
Shigematsu R, Okura T, Nakagaichi M, <u>Tanaka K</u> , Sakai T, Kitazumi S, Rantanen T	Square-stepping exercise and fall risk factors in older adults: A single-blind randomized controlled trial.	The Journal of Gerontology: Medical Sciences	63	76-82	2008

中村容一, <u>田中喜代次</u> , 藪下典子, 松尾知明, 中田由夫, 室武由香子.	健康関連 QOL の維持・改善を目指した地域における健康づくりのあり方.	体育学研究	53	137-145	2008
清野諭, 藪下典子, 金美芝, 深作貴子, 大藏倫博, 奥野純子, <u>田中喜代次</u> .	ハイリスク高齢者における「運動器の機能向上」を目的とした介護予防教室の有効性.	厚生指標	55	12-20	2008
中村容一, <u>田中喜代次</u> , 田中宏暁, 荒尾孝, 増田和茂, 柳川尚子, 宮地元彦, 田畑泉.	中高齢者の運動に基づいた健康づくりに関する学術論文の系統的レビューと文献検索システム	流通経済大学 スポーツ健康 科学部紀要	1	99-106	2008
<u>田中喜代次</u> , 片山靖富, 野又康博, 林容市, 新村由恵	生活習慣病予防のための運動処方の方の基本的考え方とその実際.	日本臨床	66 (S7)	212-217	2008
<u>田中喜代次</u> , 松尾知明, 堀田紀久子	生活習慣病対策における新しいアプローチ (オーダーメイド運動処方による生活習慣病対策)	臨床スポーツ 医学	25	103-108	2008
清野諭, 藪下典子, 金美芝, 根本みゆき, 大藏倫博, 奥野順子, <u>田中喜代次</u> .	基本チェックリストによる「運動器の機能向上」プログラム対象者把握の意義と課題 - 「能力」と「実践状況」による評価からの検討 -.	厚生指標	印刷 中		
Kim MJ, Seino S, Kim MK, Yabushita N, Okura T, Okuno J, <u>Tanaka K.</u>	Validation of lower extremity performance tests for determining the mobility limitation levels in community-dwelling older women.	Aging Clinical and Experimental Research	In press		

Okuno J, Tomura S, Yabushita N, Kim MJ, Okura T, <u>Tanaka K</u> , Yanagi H.	Effects of serum 25-hydroxyvitamin D3 levels on physical fitness in community-dwelling frail women.	Archives of Gerontology and Geriatrics	In press		
<u>小長谷陽子</u> 、藤井 滋樹	認知症介護職員の教育につい てー認知症介護研究・研修セ ンターの役割ー	日本医事新報	4386	81-84	2008
<u>小長谷陽子</u> 、藤井 滋樹	認知症介護指導者の教育に関 する意識調査～アンケートか ら見えたこと	認知症介護	9	112-11 9	2008
森明子、 <u>小長谷陽子</u> 、 鈴木亮子、大 嶋光子	若年認知症のニーズについて ーインタビュー調査からー	愛知作業療法	16	49-51	2008
鈴木亮子、 <u>小長谷陽子</u>	グループホーム入所の認知症 (アルツハイマー病) 高齢者 に対する個人回想法の試み	日本認知症ケ ア学会誌	7	70-84	2008
<u>小長谷陽子</u> 、渡邊 智之、鷺見幸彦、 太田壽城	新しい認知機能検査、TICS-J の開発	日本医事新報	4408	72-76	2008
<u>小長谷陽子</u> 、渡邊 智之、 <u>高田和子</u> 、 太田壽城	新しい認知機能検査、TICS-J による地域在住高齢者のスク リーニング	日本老年医学 会雑誌	45	532-53 8	2008

<u>小長谷陽子</u> 、 <u>渡邊智之</u> 、 <u>太田壽城</u> 、 <u>高田和子</u>	地域在住高齢者の Quality of Life (QOL)と認知機能の関連性	日本老年学会 雑誌	印刷 中		
--	---	--------------	---------	--	--